

セルビア語の振動を表わす動詞群に関する一考察

岡野 要

0. はじめに

本稿では、セルビア語の振動を表わす動詞の一群の意味と分布について考察する。振動動詞（英：verbs of oscillation，露：глаголы колебательного движения）は、最初の本格的な研究が現れてからまだ 10 年程度しか経過しておらず、本稿で取り上げるセルビア語を対象にした研究は、筆者の知る限り、まだ存在しない。以下では、先行研究においてすでに明らかにされている意味のパラメータのうち、どのパラメータがセルビア語の振動動詞に関与的であるのかを考察するとともに、セルビア語に特徴的な意味のパラメータを明らかにすることを目指す。

1. 振動の意味領域と意味のパラメータ

「振動 (oscillation)」は、「回転 (rotation)」や「拡張 (dilation)」などと同じく「(空間における) 移動」の周辺的な現象の一つである。L. V. Dvornikova の定義にするとところによれば、振動は「位置を変化させることなく、片側からもう片側へ或いは上から下へと生みだされる運動」であり、「振動の本質は、物体が均衡の中心から周期的な逸脱の状態にあることにある」。¹ 振動を表す動詞の意味については、これまで移動動詞の研究の枠内で部分的に言及されることはあったが、E. V. Rakhilina と I. A. Prokofieva によるロシア語とポーランド語の振動動詞の意味の分析において初めて詳細かつ体系的に取り上げられた。² ロシア語には振動を表すための動詞 *качаться*, *шататься*, *колыхаться*, *кивать*, *колебаться* があり、ロシア語の〈振動〉の意味領域において関与的となる意味的パラメータは、振動する物体の硬さ・揺れる際の参照点の存在・不安定さが変形 (деформация) に起因するか否かの 3 つを挙げることができる。例えば、振動動詞 *качаться* と *шататься* はどちらも下方が固定された垂直に立つ物体が安定を失うことにより起こる振動を表すが、前者が一般的に振動を広く表すのに対し、後者は振動を引

¹ Дворникова Л.В. Изучение глаголов колебательного движения в современной лингвистике. 2010. С.1. [<http://nkras.ru/nt/2010/Dvornikova.pdf>] (2014 年 8 月 13 日閲覧).

² Рахилина Е.В., Прокофьева И.А. Русские и польские глаголы колебательного движения: семантика и типология // Топоров В.Н. (ред.) Язык, личность, текст: Сборник статей к 70-летию Т.М. Николаевой. М., 2005. С. 304-314. (以下, Рахилина и Прокофьева 2005 と省略)

き起こす不安定さが変形に起因する場合にしか用いられない。つまり、*Зуб качается/шатается*。[歯がぐらぐらする]という発話における振動は変形により引き起こされるため *шататься* を用いることが出来るが、*Подсолнух качался/ *шатался на высокой ножке*。[ひまわりは背の高い軸の上でゆれていた]では振動が変形によって引き起こされるものではないため *качаться* しか許容されないのである。一方、*huścić się, kołysać się, chiwiać się, kiwać się, bujać się, chybotać (się)* を擁するポーランド語の〈振動〉の意味領域において関与的となるのは、振動の振幅の大きさ ([大] *huścić się*; [小] *kołysać się, chwiać się, chybotać [się], bujać się*) と不安定さ、振動の幾何学的なタイプ (*huścić się* = 振り子の動き, *chwiać się* = 下方が固定された垂直な物体の振動, *bujać się* = 土台となる平面上での振動, *chybotać [się]* = 物体全体の細かい振動) という大きく分けて3つの意味的パラメータである。このように、典型的に非常に近く、多くの文法現象を共有している言語間においても語彙体系に細やかな差異が存在すること、そして文法の場合と同様に、語彙にも複雑ではあるが一定の体系性が存在するという2つの見方が提出された。³

この立場からの研究を継続している T. V. Velejšikova は、分析の対象を英語とドイツ語に拡大させ、〈振動〉の意味領域において関与的であると考えられるパラメータの体系化を進めた。⁴ 彼女はまず、振動を表す動詞の意味の記述において重要な要素となるのは、移動主体 (figure)、振動の原因 (cause) および移動の環境 (landmark) の3つであると定義している。〈振動〉は、先の Dvornikova の定義でも見たように、何らかの原因により「周期的な逸脱の状態」が引き起こされ、移動主体が一方からもう一方へ移動することで生み出される運動である。〈振動〉の意味領域は、この「逸脱の状態」がどのように引き起こされるかで大きく二つに分けられる。すなわち、観察される振動が変形 (деформация) を伴うか否かという基準である。これは振動する主体が固定されたまま単に安定を失い、形を変えずに揺れる場合と主体が固定されている状態を失い、その結果振動が生じる場合の区別であり、ドイツ語の *schaukeln* vs. *schwanken*、ロシア語の *качаться* vs. *шататься* という対立はこの意味的パラメータによるものである。前者の変形を伴わない、不安定さに起因する振動は、さらに2つの下位領域に分けることが出来る：振動する物体が硬い物体 (すなわち剛体) の場合とやわらかい物体 (すなわち軟体) の場合である。〈振動〉の意味領域の3つの下位領域を典型的な例とともにまとめると以下のようなになる：

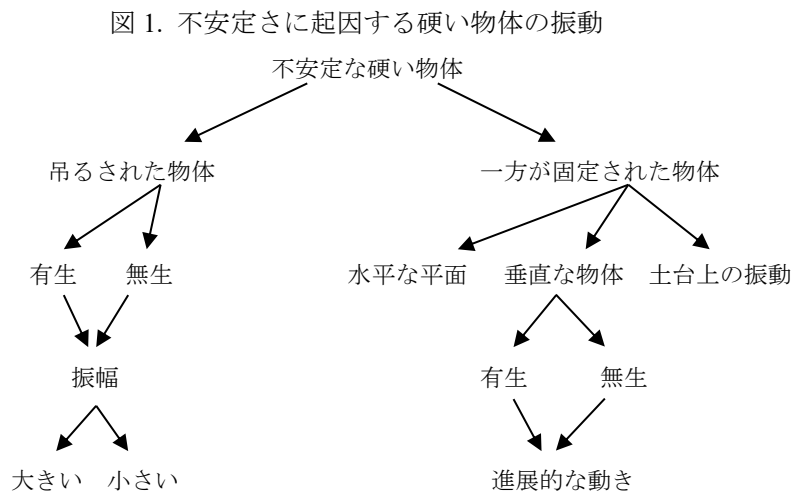
³ [Рахилина и Прокофьева 2005]における語彙の類型論的研究に対する基本的な姿勢および語彙類型論のいくつかの潮流については Рахилина Е.В., Плулган В.А. О лексико-семантической типологии // Майсак Т.А., Рахилина Е.В. (ред.) Глаголы движения в воде: лексическая типология. М., 2007. С. 9-26. に簡潔にまとめられている。

⁴ Велейшикова Т.В. Глаголы колебания: семантика и типология (на материале германских и славянских языков) // Вестник ТГПУ. Вып. 7 (97). Томск. 2010. С. 55-60.

表 1. 〈振動〉の意味領域の 3 つの下位領域

<p>1. 不安定さに起因する振動 (剛体, rigid body)</p> <p>例 :</p> <p>(RU) Маятник перестал <u>колебаться</u>. (Велейшикова: 56) 振り子は<u>揺れる</u>のをやめた。</p> <p>(GE) Die Strassenlampen <u>schaukeln</u> sacht im Wind. (ibid.: 55) 通りの街灯は風に<u>揺れていた</u>。</p>	<p>2. 不安定さに起因する振動 (軟体, soft body)</p> <p>例 :</p> <p>(PL) Rankiem namiestnik, jadąc na czele swych ludzi, jechał jakby morzem, którego falą ruchliwą była <u>kołysana</u> wiatrem trawa. (Рахилина и Прокофьева: 306) 朝になると長官は部下を従えて、風に<u>揺れる</u>草の波が荒立つ海を進んでいった。</p>
<p>3. 変形に起因する振動</p> <p>例 :</p> <p>(GE) Der Baukran <u>schwankt</u> bedenklich. (Велейшикова: 57) 昇降クレーンは危なげに<u>ぐらぐらし</u>始めた。</p> <p>(RU) Гнилые скамейки <u>шатались</u>, когда я на них садился. 腐食したベンチは、私が腰かけると<u>ぐらついた</u>。(Рахилина и Прокофьева: 308)</p>	

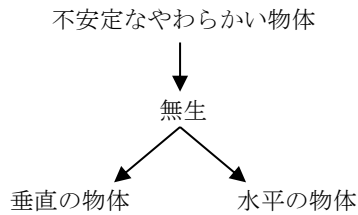
さて、次に上記 3 つの下位領域においてどのような意味的パラメータが関与的となるのか、そしてそれらがどのような階層構造を形成しているのかを概観する。1 つ目の不安定さに起因する硬い物体の振動の意味領域は以下のパラメータから構成されている：



この意味領域は、まず振動する物体が吊るされた状態であるのか、一方が固定された状態であるのかで2つに分けられる。前者の意味領域において関与的となる意味のパラメータは有生性 (animacy) と振動の振幅 (amplitude) の大きさである。一方、後者の意味領域では、振動する物体が水平な平面であるのか、垂直な物体であるのか、土台上における振動であるのかというパラメータが関与してくる。また垂直な物体については、それが有生なのか無生なのかということもさらに関わってくる。

2つ目の不安定さに起因するやわらかい物体の振動の意味領域においては、以下のようなパラメータが関与する：

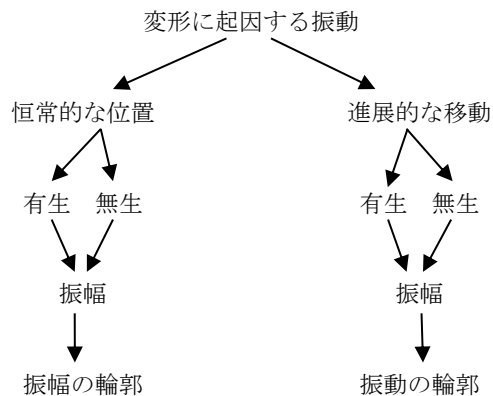
図 2. 不安定さに起因するやわらかい物体の振動



1つ目の意味領域に比べると、この意味領域に関与的なパラメータの数は少ない。やわらかい物体が振動するときには、その物体が無生であること、そして物体の形状が垂直または水平のどちらであるかが重要になる。

最後に3つ目の変形に起因する振動の意味領域に関与するパラメータを見てみよう：

図 3. 変形に起因する振動



(変形を伴う振動) の意味領域は、振動する物体の位置変化の有無により大きく二つに

分けられる。また、この意味領域では有生性、振幅の輪郭といったパラメータが動詞の選択に関与する。以上のように、〈振動〉の意味領域では、振動が何に起因するかによって表わされる意味の領域が異なり、その下位領域において関与的となる意味のパラメータも異なっているのである。もちろん、これまで見てきたパラメータとその階層はまだまだ完全なものとは言い難く、各言語の細やかな研究によりこれから追加されるパラメータが出てきたり、すでにある階層がさらに細かく分化したりする可能性は否定できない。また、分析された言語の数が少ないということもあり、この分類が人間の外界認識の方法と合致するかどうかはまだ十分に証明されていない。このことを念頭に置きながら、次節以降では本節で紹介した分類だけでなく、これまで言及されてこなかったパラメータが存在する可能性も考慮した上で、セルビア語の振動動詞を一つ一つ具体的に考察する。

2. セルビア語の振動動詞

本稿の考察は、現代セルビア語コーパス、文学作品およびインターネットでの検索、セルビア語辞典の用例から抽出した約 120 例の分析およびセルビア語話者への聞き取り調査をもとに行なわれた。⁵ 分析の対象とするセルビア語の振動動詞は *ljuljati se*, *njihati se*, *klatiti se*, *drmati se*, *klimati (se/ čime)*, *gegati (se)*, *lelujati (se)*, *zibati se* である。また振動動詞ではないが、身体部位の振動を表すことのできる動詞 *mahati*、おもに物理学の分野で使用される振動動詞 *oscilirati/ oscilovati*、そして現代語では物理的な振動を表すことが少なく、抽象的な意味で用いられることの多い動詞 *kolebati se* についても適宜言及する。

Ljuljati se

セルビア語の振動動詞の語彙体系において、中心的な役割を担っているのは動詞 *ljuljati se* であろう。この動詞は、主に不安定さに起因する硬い物体の振動を表すために用いられる。最初に一方が固定されている物体の振動を表す例をいくつか見てみよう：

⁵ セルビア語コーパスは、ベオグラード大学数学部の開発した *Korpus savremenog srpskog jezika* (以下、KSSJ と省略) を、セルビア語辞典は *Речник српскохрватскога књижевног језика. I-III* (Нови Сад-ザグレブ: Магица српска-Магица хрватска, 1967-1969); *IV-VI* (Нови Сад: Магица српска, 1969-1976) (以下、RMS と省略)、および *Речник српског језика* (Нови Сад: Магица српска, 2007) を用いた。文学作品・新聞・雑誌からの引用については、それぞれの例文の末尾に出典を示した。

また今回の考察では、セルビア語を母語として話すインフォーマントとして以下の方にご協力いただいた (回答順、敬称略) : *Margareta Samoran* (ベオグラード言語専門高等学校), *Sanja Joka* (東京外国語大学大学院), *Filip Andrić* (ベオグラード大学理学部), *Ivana Antonić* (ノヴィ・サド大学哲学部), *Dužanka Vujović* (ノヴィ・サド大学哲学部)。この場を借りて心より感謝申し上げます。

- (1) *Čamac se još uvek ljudao, jer je druga ajkula nastavila komadanje ribe i starac podiže ručicu jedra kako bi se čamac nagnuo u stranu i primorao ajkulu da izroni.* — もう一匹のサメが魚をばらばらにするのを続けていたため、船はまだ揺れていた。老人は船が横へ飛び出し、サメを浮かび上がらせるために帆の持ち手を上げた。(KSSJ, E. Hemingvej, Starac i more.)
- (2) *Urlajući od bola, a vezanih ruku, krvav, trčao je teško, vijući se, savijajući se i ljudajući se, tako da je iz daleka, iz kola, otkuda ga je Komesar, sa svojim kirasirima, posmatrao, izgledao kao neki veliki cvet, sad beo, sad rujan, što se povija, na vetru.* — 痛みに声を上げながら、両手は縛られ、血だらけで、つらそうに走ってはひるがえり、身体をかがめて揺れていたので、遠くから、将校が重騎兵らとともに監視していた車からだと、[彼は]風の中で傾いて白色や朱色にかわる大きな花かなにかのように見えた。(M. Crnjanski, Seobe.)
- (3) *Sećam se, lampa sa svilenim abažurum bacala je svetlo na zlatne kovrče Mime Laševske, a po Knez Mihajlovoj je zviždala košava, bilo je hladno — svetiljke su se ljudale na vetru koji je prodirao kroz moj tanki mantil.* — 覚えている、絹のシェードの付いたランプがミマ・ラシェフスカの金色の巻き毛に光を投げかけ、そしてクネズ・ミハイロ通りを冷たいドナウの風がひゅうひゅうと吹き抜けて、肌寒かったのを—そして街灯が私の薄手のコートにも入り込んできた風のなかで揺れていたのを。(M. Kapor, Foliranti.)
- (4) *Kada sam htela da sednem, prepuni autobus počeo je da se ljudja. Putnici su se uplašili, jer je vozač počeo naglo da koči. Nastala je prava panika.* — 私が座ろうとしたとき、人でいっぱいのバスは揺れ始めました。運転手が急ブレーキをかけたので、乗客は驚きました。まさにパニック状態になったのです。(KSSJ, Politika. 09. 09. 2000.)

例文(1)は前節で概観した1つ目の意味領域の中の、一方が固定された水平な面の振動を表わしている。例文(2)と(3)では、一方が固定された垂直な物体の振動が表わされており、前者では人間が、後者では無生物が振動する主体となっている。例文(4)では土台上における振動を表わすために動詞 *ljudjati se* が用いられている。同様に、〈吊るされた物体の振動〉の意味領域もこの動詞がカバーしている：

- (5) *Ogromna ljudjaška se nalazi na visini od 400 metara i ljudja se brzinom od 80 kilometara na čas, ali prilikom ljudjanja imaćete zasigurno najbolji pogled na svetu jer se nalazi iznad kanjona reke Kolorado kod kanjona Glenvud.* — 巨大なブランコは標高400mの高さにあり、時速80キロ以上の速さで揺れるが、グレンウッド峡谷のそばのコロラド川の峡谷の上に位置しているため、揺れる際にはきっと世界でも最高の眺めを楽しむことができることでしょう。(Novi Magazin, Najzbudljivija ljudjaška na svetu. 20. 07. 2013.)

このように、振動動詞 *ljuljati se* は〈不安定さに起因する硬い物体の振動〉の意味領域における意味を幅広く表わすことが出来る。

Njihati se

動詞 *njihati se* は、動詞 *ljuljati se* と同じく不安定さに起因する振動を表す際に用いられる。例を引用しよう：

- (6) *Umesto da se na njivi, ravnoj kao fudbalsko igralište, zelene i od blagog povetarca njišu stabla žitarica, povrća, pasulja i deteline, na njoj su gomile kamena, granja, panjevi drveta i dve slupane i trule "školjke" automobila koje je voda donela odnekuda.* — サッカー場のように平らな草原には、草木やイネ科の草、野菜、インゲン、クローバーの茎がそよ風に揺れている代わりに、たくさん石や枝、木の切り株と、水がどこからか運んできた、割れている朽ちた車の「殻」が2つあった。(KSSJ, Politika. 27. 06. 2001.)
- (7) *Njihala se u prvoj posleratnoj stolici za ljuljanje koja je te godine stigla u Beograd, šetala preko tamnog persijskog tepiha ili se, jednostavno, izležavala na ljubičastom divanu listajući od tri do sedam luksuznu monografiju „Yugoslavia Today“.* — その年にベオグラードに到着した戦後最初の揺り椅子に揺られたり、暗い色のペルシャ絨毯を横切って散歩したり、3時から7時まで「ユーゴスラヴィア・トゥデイ」という豪華なモノグラフのページをめくりながら、紫色のソファの上でただごろごろしたりするのだった。(M. Kapor, Foliranti.)
- (8) *Laka letelica lagano se njiše na jutarnjem vetriću, dok se ispod nas jasno vide polja uredno izdelfjena na kocke.* — 我々の下に規則的に四角に区切られた草原が見えている間、軽飛行機は朝の風にそよそよと揺れていた。(Blic, Na zmaju iznad Beograda. 07. 06. 2009.)

上の3つの例文からも分かるように、*njihati se* は一方が固定された垂直な物体の振動(草木や茎が風に揺れる)や土台上の振動(揺り椅子に座って揺れる)といった振動を表すことができる。しかし、同じ意味領域を分担する動詞 *ljuljati se* と動詞 *njihati se* には振動する物体の種類に違いがある。動詞 *ljuljati se* が話し手によって観察される振動の性質・種類に関する細かいニュアンスを表わさない、いわば中立的な動詞であるのに対し、動詞 *njihati se* は振動する物体に弾力性があり、比較的ゆっくりとした振動を表わす際に好んで用いられる傾向がある。つまりこの動詞は、*Klatno je prestalo da se njiše.* [振り子は揺れるのをやめた]や *U sobi se njiše stolica za ljuljanje.* [部屋では揺り椅子が揺れている]のように1つ目の下位領域〈不安定さに起因する硬い物体の振動〉に分類される揺れを表わすことが出来る一方で、2つ目の下位領域〈不安定さに起因するやわらかい物体

の振動)の特徴も併せ持っているのである。そのため動詞 *njihati se* は、後述する2つ目の意味領域の意味を担う動詞 *leljati (se)* の代わりに用いることが可能であり、特定のコンテキストにおいては動詞 *njihati se* を用いる方が自然だと判断される場合がある。2つ目の意味領域において動詞 *njihati se* が描写するのは、弾力のある身体部位(とても太っている人の体、女性の胸や臀部など)が揺れている様子である：

- (9) *Njihova tela kao da trepere pred sjajnim izgledima koji im se pružaju svake noći. To su zdrave, mlade žene čije se grudi zrelo njišu ispod letnjih haljina.* — 毎晩寄せられる輝く視線の前で、彼女たちの体はふるえているようだった。それは夏物のドレスの下で大人っぽく胸が揺れている、健康的で若い女性たちであった。(M. Kapor, Foliranti.)

このように、動詞 *njihati se* は1つ目の意味領域と2つ目の意味領域にまたがった分布を見せる動詞であることが分かる。

Klatiti se

動詞 *klatiti se* は、大きく分けて2つの異なるタイプの振動を表すために用いられる。この動詞が表わす1つ目のタイプの振動は、振れ幅の比較的大きな、振り子状の規則的な運動である。⁶ このタイプの振動を表わすとき、動詞 *klatiti se* は上述の動詞 *ljuljati se* と同じく、不安定さに起因する硬い物体の振動を表すために用いられる：

- (10) *Činilo se da jaše, kao da se, na konju, u paradi, po manježu, šeta. Klatio se jako, na preponama, ali nije pao.* — 彼はまるで馬術場を散歩しているかのように、行進の中を馬に乗って進んでいった。馬は障害物で強く揺れたが、倒れることはなかった。(M. Crnjanski, Seobe.)
- (11) *U nekoliko mahova na jorgovan bi sleteo po kakav raspevani štiglic, okrenuo se hitro, pustio koji grleni ton i naglo, kao da se setio nečega što je zaboravio, srnuo sa krikom na obližnje drvo ili u dubinu zašecerelog vazduha, ostavljajući u Radmilinim očima samo odblesak svojih svetlih i blistavih boja i jednu granu koja se klati brže nego ostale.* — 大声で歌うカワラヒワかなにかのように何度か羽ばたいてライラックの上に降り立つと、素早く周り、まるで忘れていた何かを思い出したかのようにのどの調子を変え、ラドミラの目に明るく輝く色の反射と、他の枝よりも早く揺れている一本の枝をのこしたまま、鳴き声を上げて近くの木か甘ったるい空気の奥へと飛び立っていった。(KSSJ, B. Ćosić, Dva carstva.)

⁶ インフォーマントへの聞き取り調査では、振り子が揺れている様子は動詞 *ljuljati se*, *oscilovati*, *njihati se* によっても表すことが出来るが、動詞 *klatiti se* を用いるのが最も適切であるという回答があった。

- (12) *Ljuljaška se klati napred-nazad.* — ブランコは前へ後ろへと揺れている。(Informant)

上の3つ例からも分かるように、この動詞は、振れ幅の比較的大きな、揺れているのが視覚的にはっきりとわかる振動を表わす。これに加えて、この動詞は、物体または人間が固定されている状態を失ってぐらぐらと揺れる様子、すなわち3つ目の意味領域である〈変形に起因する振動〉の意味も表わすことが出来る：

- (13) *Verujem da su se ljudi uspaničili kada je most počeo da se klati. To je normalna posledica kretanja pešaka po mostu, ujednačenim hodom.* — 橋がぐらついたとき、人々がうろたえたというのは信じられます。それは歩行者が一定の足取りで橋を移動していた結果としてごく普通のことだからです。(Blic, Fanovi „Stonsa“ opasno zaljuljali Brankov most. 17. 07. 2007.)
- (14) *Celo telo mu se ukoči, poče da se klati, a zatim pade pravo na lice, ravan kao daska.* — 彼の全身は柔軟さを失い、揺れ始め、その後顔からまっすぐ転倒し、板のように平らになっていた。(KSSJ, Dž. Rouling, Hari Poter i kamen mudrosti.)
- (15) *Otvori usta. Tako, zub se zaista klati, ali od toga nećeš umreti! Meri, donesi mi svilen končić i žišku iz kuhinje.* — 口を開けて。そうだね、本当に歯がぐらついているね、でもこれで死んだりしないよ！メリー、台所から絹の糸と熱い炭をひとつ持ってきておくれ。(KSSJ, Tom Sojer.)

このように動詞 *klatiti se* は、〈不安定さに起因する硬い物体の振動〉だけでなく、〈変形に起因する振動〉の意味も表わすことが出来る動詞であることが分かる。この動詞が変形に起因する振動を表わすとき、上の3つの例文のように、恒常的な位置にある物体が固定された状態を失うことでぐらぐらと揺れる様子が描写される。

Drmati se

動詞 *drmati se* は、無生物の物体に何らかの力が加わり、それにより細かい揺れが引き起こされる状況を描写する際に用いられる。この動詞が主語に取る物体は、固定されているため本来揺れると想定されていないもの、または潜在的に揺れる能力のないものであることが多い。例を見てみよう：

- (16) *Udari su se ponavljali, vrata su se drmala.* — 衝撃が続いたので、門は揺れていた。(RMS 1: 781)
- (17) *I Milan se zaboravljao, pričao veselo, udarao punom rukom po stolu koji se drmao, i po sablji koja je zveketljivo tresla.* — ミランは我を忘れて、愉快そうに話をし、腕全体で揺れている机とガチャガチャと震えるサーベルをたたいた。(KSSJ, V. Milićević, Bespuće.)

上の例からも分かるように、この動詞は、主に衝撃などの外からの刺激が原因で物体が一多くの場合その位置を本質的に変化させることなく一細かく小刻みに振動する状況を表わすために用いられる。この動詞によって言語化される振動は、継続時間が比較的短く、すぐに静止状態へと戻ってしまうような振動であることが殆どである。細かい揺れは、「震え (vibration)」の意味野に属する動詞 *tresti se* によって表わすことも可能であり、動詞 *drmati se* と *tresti se* は意味的に非常に近い関係にある。しかしながら、動詞 *tresti se* の表わす震えは物体が固定されているかどうかということには関与せず、多くの場合自ら震えることの出来るもの、または震えると想定されているものである (cf. *Ruke mu se tresle od napora*. [彼の両手は緊張で震えていた], *Kotlovi su se tresli pod pritiskom pare*. [ボイラーは蒸気の圧力で震えていた])。

Klimati (se)/ klimati (čime)

動詞 *klimati (se)/ klimati (čime)* は、自動詞として用いられる場合と他動詞として用いられる場合の2つのタイプの使用が確認できるが、そのどちらにおいても振動の意味を表わす。自動詞としてこの動詞が用いられる場合、物体全体が振動する状況が描写される。この動詞が表すのは、不安定さに起因する一方が固定された垂直な硬い物体の振動である：

- (18) *Oko nje stražare tamni visoki jablanovi klimajući polako*. — その周りには、暗くて背の高いポプラの木が静かに揺れながらそびえていた。(RMS 2: 737)
- (19) *Stolovi u operacionim salama kao i bolnički kreveti se klimaju i odaju utisak nestabilnosti, ali, kako su nam domaćini objasnili, reč je o najnovijim tehnologijama i materijalima koji tako čuvaju krevet od lomljenja*. — 手術室の机は病棟用ベッドと同じように揺れるので、不安定な印象を与えたが、センター長らが私たちに説明するところによると、破損からベッドを守る最新の技術と素材であるとのことだった。(Politika, Urgentni centar Vojvodine najmodernija zdravstvena ustanova u regionu. 14. 08. 2010.)

この動詞を使用する際に、最も重要なパラメータとなっているのは、振動する物体の下方が固定され、尚且つその物体の形状が垂直に伸びる細長い形状であるということである。そのため、同じ〈不安定さに起因する硬い物体の振動〉の意味領域に分類される吊るされた物体の振動 (*Klatno je prestalo da se *klima*. [振り子は揺れるのをやめた]) や、土台上の振動 (*U sobi se *klima stolica za ljujanje*. [部屋では揺り椅子が揺れている])、水平な平面の振動 (*Čamac se *klima na talasima*. [小舟が波に揺れている]) を動詞 *klimati (se)* によって表すことは出来ない。

他動詞 *klirati* は、自動詞として使用される場合と同様に、垂直な物体が揺れる様子を表すが、振動する主体全体の動きではなく、(通常人間が) 頭を動かしている状況を描写するために用いられる：

- (20) *Pa drema, klima glavom i mlata nogama.* — そしてウトウトとして、頭を揺らしながら、足をぶらぶらさせている。(D. Vasić, Resimić Dobošar.)
- (21) *On se smešio i klimao glavom.* — 彼は微笑むと会釈をした。(M. Crnjanski, Vrt blagoslovenih žena.)

眠気によって頭がくらくらと揺れる様子、あいさつのために会釈をする様子の他に、賛同のしるしにうなづく様子なども他動詞 *klirati* によって描写することが出来る。この意味領域は、振動動詞に属していない *mahati* によっても表わすことが可能である。この動詞は人間または動物の身体部位(補語がない場合は、手)を動かす際に用いられるが、動詞 *klirati* のように頭を補語にとることも可能である：

- (22) *Pred kućom su nestrpljivo kopali čilaši, mahali glavama i frskali.* — 家の前で灰色の馬たちはじれったそうに土をほじくり、頭を振りながらフンフンと音を出していた。(V. Petrović, Salašar.)

しかしながら、これら2つの動詞の表わす行為には本質的な違いが存在する。動詞 *klirati* によって表わされる振動は、通常何らかの意味—賛同、眠気のあらわれ、会釈—を持つが、動詞 *mahati* が類似した行為を表すとき、単に有生の主体の身体部位が小刻みに動いていることを示しているだけである。

Gegati (se)

動詞 *gegati (se)* は、振動の意味領域のうちごく限られた範囲を表わすために用いられる。この動詞によって表わされるのは、移動する際に有生の主体(ほとんどの場合は、人間)が足取りの安定を失い、よろよろと揺れている様子である。1節で概観した意味領域に当てはめると、3つ目の下位領域(変形に起因する振動)の中の進展的な移動を伴い、有生の主体が振動する場合に分類される。

- (23) *Kamera prati dečaćića od nepune dve godine, još u pelenama, kako se žurno gegu da dohvati flašu iz dedine ruke.* — カメラは2歳に満たない、まだおむつをはいた男の子がおじいさんの手からビンを取ろうと急いでよたよたと歩いている様子をとらえていた。(Politika, Kad beba pije pivo. 10. 01. 2010.)

- (24) *Bibliotekar se gegao pomažući se rukama između beskrajskih polica s knjigama.* — 司書は果てしなく続く本の収められた棚の間を手でつたいながら、よろよろと歩いて行った。(KSSJ, T. Pračet, Straža! Straža!)

上の2つの例文のように、動詞 *gegati (se)* によって振動が描写されるとき、通常進展的な移動を伴うことが条件となる。振動する物体が位置を変化させない場合には、前述の動詞 *klatiti se* が用いられる。

Lelujati (se)

振動動詞 *lelujati (se)* は、不安定さに起因するやわらかい物体の振動を言語化する際に用いられる。この動詞にとって最も関与的な意味のパラメータは、物体の形状であり、木の枝のように細い物体、または木の葉のように薄くてやわらかい物体が揺れている様子を描写するために用いられる。例を見てみよう：

- (25) *Pšenice se široko lelujuju.* — 小麦は広々と揺れていた。(RMS 3: 185)
(26) *Vrhovi jablana lelujuju se na vetru.* — ポプラの木の先端が風にゆらゆら揺れていた。(KSSJ, San o ljubavi i smrti.)

例文(25)および(26)からも分かるように、この動詞は小麦の穂や木の先端などのしなることのできるやわらかい物体の振動を表している。さらにこの動詞は、ろうそくの炎のように形(輪郭)がしなるようにゆらゆらと揺れ動く様子を表わす際にも用いられる。

- (27) *Plamičak sveće gasne, leluja se, možda je neko negde otvorio vrata.* — ろうそくの小さな炎は消えかけて、ゆらゆらと揺れていた。誰かがどこかでドアを開けたのだろう。(KSSJ, Mostovi.)
(28) *Kandilo se zapalilo, slabački se lelujaio plamen dva minuta, zacvrčao i ugasio se.* — キャンドルは燃え、炎は弱々しく2分間揺れるとシューシューと音を立て始め、消えた。(KSSJ, I. Sekulić, Kronika palanačkog groblja.)

この意味領域は、本来後述する動詞 *kolebati se* が主に担っていたと考えられるが、現代語では動詞 *lelujati (se)* によって表すのがより自然であると考えられる。⁷ これは物理的

⁷ インフォーマントへの聞き取り調査では、ろうそくの炎が揺れる様子を表す動詞として *kolebati se* を許容しない人、または適切かどうか疑わしいと判定する人がいる一方で、動詞 *lelujati (se)* は殆どすべての回答者が適切であると判断するという結果が得られた (cf. *Plamen sveće se koleba/se leluja usled vetra.* [ろうそくの炎は風でゆらゆらと揺れていた])。このことから、これら2つの動詞

な振動を表わす際の *kolebati se* の使用が減少して、専らメタファー的な意味で用いられるようになったこと、そして上の2つの例文で表されるような場面が動詞 *lelujati (se)* によって描写される条件となる物体の形状に類似しているという2つの点に関連していると考えられる。但し、*kolebati se* が静止状態を参照点として、揺れている状態を元の状態からの逸脱と捉える軽い振動を表わすのに対し、*lelujati (se)* は単にやわらかい物体がゆらゆらと揺れていることを示すのみである。

Oscilirati/ oscilovati

動詞 *oscilirati* または *oscilovati* は、これまでの他の動詞とは異なり、その使用に大きな制限がある。この動詞は主に物理用語としての使用が一般的であり、百科事典や学術論文、関連する分野の教科書などで用いられることが多い。⁸ この動詞の表わす振動は、多くの場合振り子の振動である：

- (29) *Matematičko klatno je oscilatorni sistem koji se sastoji iz neistegljive niti zanemarljive mase na koju je ovesena kuglica zanemarljivo malih dimenzija u odnosu na dužinu niti i znatno veće mase od mase niti i koji može da osciluje pod uticajem Zemljine teže.* — 数学振り子とは、わずかな質量の伸縮しない糸とそこに吊るされた、糸の長さに対して面積の小さい球体から構成される振動体系である。その球体の質量は糸の質量よりもはるかに大きく、この体系は地球の重力の影響のもと振動することができる。(Wikipedija: Matematičko klatno.)

この動詞が、物理学等に関係しない一般的な文脈で使用される場合、メタファー的な意味で用いられることが多い：

- (30) *Kada je reč o planinskom odmoru, cene smeštaja u hotelima osciliraju u zavisnosti od perioda, vrste usluge i kategorije objekta.* — 山での休暇についていえば、ホテルの宿泊施設の価格は時期やサービスの種類、施設のカテゴリーにより幅がある。(KSSJ, Politika, 15.05.2001.)
- (31) *Književna kritika osciluje između dva krajna mišljenja.* — 文芸評論は2つの極端な思想の間で揺れている。(RMS 4: 236)

は意味の上で競合関係にあるが、現代セルビア語においては動詞 *kolebati se* の物理的な振動を表わす頻度は低く、動詞 *lelujati (se)* を用いる方がより自然であると考えられる。

⁸ *Речник српскога језика*, C. 895.では、動詞 *oscilirati/ oscilovati* の項目に物理用語であることが注記されている。また、インフォーマントの回答では、*Ljuljaška se ljulja/ se njiše/ ?osciluje* [ブランコが揺れている]のような一般的な文脈では動詞 *oscilirati/ oscilovati* の使用の許容度が下がるという傾向が見られた。

2つの例文からも分かるように、動詞 *oscilirati/ oscilovati* は、一般的な文脈では価格や思想といったある程度の幅を持つものがある状態と別の状態の間を行ったり来たりしている様子を表す際に用いられる。

Kolebati se

すでに少し述べたように、動詞 *kolebati se* は現代語において物理的な振動を表わすことが極めて少ない。この動詞の同根語 (cognate) であるロシア語の動詞 *колебаться* は、すでに指摘されているように、ろうそくの炎・影・沼の水面・水面に映る物体が揺れる様子を描写する。⁹ 炎や影といった振動する主体には中立的な状態 (= 静止状態) があり、*колебаться* はその状態を参照点として、形を変えて元の状態から逸脱したり、また元に戻ったりしている様子を描写するのである。セルビア語の動詞 *kolebati se* は、ロシア語の同根語よりもさらにその使用範囲が狭く、現代語における使用頻度はそれほど高くないが、ロシア語の場合と同じように元の状態からの逸脱を表わすために用いられる：

(32) *Pramen sveće je poigravao te se njegov lik kolebao i ljuljao tamo-amo.* — ろうそくの炎は少し踊り、彼の顔は揺らめき、あちらへこちらへと揺れていた。(RMS 2: 780)

上の例のように、動詞 *kolebati se* は物理的な振動を表わすことが出来るが、現代語では転義で用いられることが殆どである：

(33) *Ako je u stanju da se koleba hoće li reći "Da", treba odmah da kaže "Ne".* — もし「はい」と言うかどうか躊躇っているならば、すぐさま「いやだ」というべきある。(KSSJ, Dž. Ostin, Ema.)

(34) *Ekonom se još malčice kolebao, zatim je dao znak svojim ljudima i pojurio desnom stazom, a naše mazge su opet krenule uzbrdo.* — 会計係はまだ少し躊躇っていたが、しばらくすると自分の者たちに合図をし、右側の小道を急いでいった。私たちのラバは、坂道を上った。(KSSJ, U. Eko, Ime ruže.)

例文(33)および(34)からも分かるように、動詞 *kolebati se* は人間を主語にとり、心がある状態と別の状態との間で揺れ動いている様子を表している。

Zibati se

動詞 *zibati se* は、他の振動動詞に比べるとその使用頻度が極めて低い動詞である。現

⁹ Рахилина и Прокофьева 2005, С. 311-312.

代セルビア語コーパスおよび文学作品等でもこの動詞を用いた例の数は大きく限られており、この動詞がどのようなタイプの振動を表しているのかを正確に判断するのは困難である。辞書からの例を引用しよう：

- (35) *Dizao je glavu visoko, bacao je ruke nehajno, a zibao se kao da kolo igra.* — [彼は]頭を高く上げると、無関心そうに手を差し出して、コロを踊るかのように揺れた。(RMS 2: 303)

語源辞典によれば、この動詞は共通スラヴ語の語根**zyb-*「揺れる」を起源に持つ動詞であり、使用頻度に差はあるものの、他の現代スラヴ諸語にも同じ語根を継承した語が確認できる (cf. ロシア語：*зыбкий* [不安定な]、ベラルーシ語：*зыбка* [揺りかご]；*зыбі/зыбівы* [不安定な]、スロヴェニア語：*zibati (se)* [揺れる・揺らす]；*zibelka* [揺りかご]、クロアチア語チャ方言：*zibat* [揺らす])¹⁰。セルビア語辞典の *zibati se* の項目には、この動詞の使用が減少している、またはこの動詞が古語になりつつあるという記述や文体・使用分野に関する注記は見られないが、筆者の行なったインフォーマントへの聞き取り調査では、回答者全員からこの動詞を一度も耳にしたことがない、または一度も使ったことがないという回答が返ってきた。この結果を考慮に入れると、この動詞がセルビア語の語彙体系における機能を失いつつあることが予想される。このような理由から、今回の考察の枠内ではこれ以上この動詞を取り上げないが、今後この動詞に関する通時的または方言等を考慮に入れた地域的な観点からの更なる調査が必要であろう。¹¹

3. 語彙体系の分析

ここまではセルビア語の振動を表わす動詞の意味とその用法について一つ一つの動詞を考察してきた。セルビア語の振動を表す動詞は、すでに分析が行なわれているロシア語・ポーランド語・英語・ドイツ語と比べてその数が多い。¹² また個々の動詞の分担

¹⁰ 語源については Skok, P. *Etimologijski rječnik hrvatskoga ili srpskoga jezika*, Knjiga treća (Zagreb: JAZU, 1973), p. 653. および Фасмер. М. *Этимологический словарь русского языка*, Т. 2. М., 2004. С. 108. を参照。

¹¹ 同じ南スラヴ語群に属する現代スロヴェニア語にも同じ語源・語形を持つ動詞 *zibati se* が存在するが、*Slovar slovenskega knjižnega jezika*. (Ljubljana: Inštitut za slovenski jezik Frana Ramovša ZRC SAZU, 2000. [2014年9月14日閲覧]) の記述を見る限りでは、この動詞は *ob lepi melodiji se je njeno telo začelo zibati* [美しいメロディに合わせて彼女の体が揺れ始めた]、*zibati se po taktu* [周期に合わせて揺れる]、*pri hoji se ziblje v bokih* [歩く際に両脇に揺れる]、*cveti, veje se zibljejo v vetru* [花や枝が風に揺れている]、*zibati se kot pijanec* [酔っ払いのようにふらつく] のように、セルビア語の同根語よりも広い範囲で用いられているという印象を受ける。

¹² Рахилина и Прокофьева 2005, С. 304-305. ではロシア語とポーランド語の振動動詞に同根語が少ないことが指摘されているが、セルビア語の振動動詞にもこれら 2 つのスラヴ語と語源的に共通

する意味領域は、部分的に重なることも多く、その分布はすでに研究されているロシア語やポーランド語に比べると複雑である。以下ではセルビア語の振動動詞が〈振動〉の意味領域においてどのように分布しているのか、そしてセルビア語の振動動詞の語彙体系に關与的な意味のパラメータについて考察する。

3.1. 不安定さに起因する硬い物体の振動

まず1節で概観した意味領域の1つ目の下位領域〈不安定さに起因する硬い物体の振動〉は、*ljuljati se*, *njihati se*, *klatiti se*, *klirati (se)*, *klirati (čime)*, *drmati se*によって言語化されている。この動詞のうち、*ljuljati se*は多くの場合に他の振動動詞との置換が可能であり、この意味領域のドミナントとして機能しているとみなすことが出来る (cf. *Čamac se njiše/ se ljulja na talasima*. [小舟が波に揺れている], *Klatno prestalo da se klati/ se ljulja*. [振り子は揺れるのをやめた], *Klima se/ ljulja se sto*. [机が揺れている])。しかしながら、振動する物体の形状や揺れの規則性といった振動の細かい性質に発話の焦点が置かれる場合には、*ljuljati se*ではなく他のより意味の限定された動詞が選択される。また動詞 *ljuljati se*は、3つ目の意味領域〈変形に起因する振動〉の意味を表わす動詞の代わりに用いることも可能である。しかしこのとき、この意味領域にとって本質的である〈変形〉のパラメータはいわば「無視」され、物体が揺れているという意味を伝達するのみである (cf. *Zubi su mi se klatili/ se⁽⁹⁾ljuljali*. [私の歯はぐらぐらしていた])¹³

これ以外の動詞は、比較的狭い範囲の意味領域を切り分けるように分布している。動詞 *njihati se*は振動する物体が弾力性を持つ場合に好んで用いられ、動詞 *klatiti se*は視覚的にははっきりと分かる規則的な振り子状の揺れを表わすために用いられる。動詞 *klirati (se/ čime)*は、自動詞として用いられるとき、下方が固定された垂直の物体が振動する様子を描写し、他動詞として用いられるとき、頭などの固定された身体部位が振動する様子を描写する。動詞 *drmati se*は、主に外的な刺激を原因として起こる、物体全体の小刻みな振動を表わすために用いられる。

する語が殆ど存在しない。「振動」の意味野は、「移動」や「回転」といった他の意味野に比べると現代スラヴ語同士に共通する語が少ない意味領域であり、それぞれの語彙単位の担う意味や分布にも一定の差異があることが予想される。

¹³ セルビア語辞典やコーパスに例があるにも関わらず、インフォーマントの一部は歯がぐらぐらする状況を表わすために動詞 *ljuljati se*を使用するのは誤りであると判断している。これはおそらく、この動詞が〈変形〉の意味を十分に表わすことが出来ないからであると推測される。また、同じ状況を表わすために動詞 *klirati (se)*を用いることが出来るが (cf. *Zub mi se klima* [私の歯はぐらぐらしている])、この場合、歯が下方を歯茎に固定された垂直の物体であると話し手に理解されているため、この動詞の使用が許容されると考えられる。

3.2. 不安定さに起因するやわらかい物体の振動

セルビア語の振動動詞の語彙体系において、2つ目の下位領域〈不安定さに起因するやわらかい物体〉は動詞 *lelujati (se)* と *njihati se* によって言語化される。動詞 *lelujati (se)* は、木の枝などのように細い、または木の葉のように薄い、しなることの出来るやわらかい物体がゆらゆらと振れている様子を表すために用いられる。但し、振動する物体の形状が細いまたは薄いという条件を満たしていても、一方が固定された物体もしくは吊るされた物体が揺れていると話し手が場面を理解した場合、1つ目の下位領域を表わし、弾力のある物体を主語にとる傾向のある動詞 *njihati se* に置き換えることが可能である (cf. *Na zidu se leluja/ se njiše nečija senka.* [壁に誰かの影が揺れていた])。また、太った人の身体の一部や女性の胸や臀部などの (通常、手や足のよう細長い形状ではない) 身体部位が波打つように揺れる様子は、細い物体や薄い形状の物体を表わす動詞 *lelujati (se)* ではなく動詞 *njihati se* によって描写される傾向が見られた。

3.3. 変形に起因する振動

3つ目の下位領域〈変形に起因する振動〉を表わすのは、*klatiti se*, *gegati (se)*, *kolebati se* である。これら3つの動詞のうち、表す意味の範囲が最も広いのは動詞 *klatiti se* である。この動詞は、振り子状の規則的な振動を表わすために用いられるが、物体が固定された状態を失い、位置を本質的に変化させずにぐらぐらと揺れる状況も表すことができる。動詞 *gegati se* は、有生の主体 (人間) が移動する際に揺れている様子、足取りが不安定な様子を表すために用いられ、通常無生物を主語に取る場合には用いられない。動詞 *kolebati se* は、ろうそくの炎などが元の状態から形を変えて揺れている様子を表わすことが出来るが、現代語では物理的な振動よりも躊躇など心の状態が揺れ動く様子を表わす転義での使用が圧倒的に多い。炎や影のゆらゆらとした揺れは、しなることの出来るやわらかい物体の振動を表す動詞 *lelujati (se)* によって表すのが現代語では一般的になっているようである (cf. *Plamen sveće se leluja/ se ?koleba usled vetra.* [ろうそくの炎が風に揺れている], *Na zidu se leluja/ se ?koleba nečija senka.* [壁に誰かの影が揺れていた])。

3.4. 〈振動〉の意味領域における動詞の分布と関与的なパラメータ

セルビア語の振動を表わす動詞の分布を *Velejšikova* の整理した〈振動〉の3つの下位領域の分類に従って簡潔にまとめると、次頁の表2のように示すことが出来る。

この表からも分かるように、セルビア語の振動動詞は *Velejšikova* の3分類に比較的沿うように分布している。しかしながら、今回の考察ではこの分類だけでは十分に説明で

きない動詞の分布も確認された。例えば動詞 *njihati se* は、1つ目の下位領域〈不安定さに起因する硬い物体の振動〉において典型的な例を表わせる一方で、振動する物体に弾力性があるときに動詞 *lelujati (se)* の代わりに用いたり、平面的な身体部位の振動を表わしたりすることが出来る、いわばハイブリッドのような動詞であることが明らかになった。

表 2. 〈振動〉の意味領域における動詞の分布

I. 不安定／硬い物体	II. 不安定／やわらかい物体	III. 変形を伴う
<i>ljuljati se</i> : ドミナント	<i>lelujati (se)</i> : 細い／薄い形状のしなる物体	<i>klatiti se</i> : 物体の位置変化を伴わない
<i>njihati se</i> : 弾力のある物体		<i>gegati se</i> : 有生の主体の位置変化を伴う
<i>drmati se</i> : 物体全体の小刻みな振動		
<i>klatiti se</i> : 振り子状の振動		
<i>klimati (se)</i> : 垂直の物体の振動		
<i>klimati (čime)</i> : 垂直の身体部位		
		<i>kolebati se</i> : 参照点からの逸脱

本稿での考察をまとめると、セルビア語の〈振動〉の語彙体系において関与的となる意味のパラメータは、振動する物体の形状（垂直の物体全体の揺れを表わす *klimati [se]*、弾力のある物体を好んで表わす *njihati se*、細いまたは薄い形状のしなる物体の揺れを表わす *lelujati [se]*）と振動の性質（無標の動詞 *ljuljati se*、規則的で振れ幅の大きい揺れを表わす *klatiti se*、位置を変化させることなく物体全体の小刻みな揺れを表わす *drmati se*）であり、これらのパラメータがそれぞれの動詞の使用や語結合に影響していることが明らかになった。また、ロシア語やドイツ語において関与的であるとされる変形の有無の区別は、セルビア語の〈振動〉の語彙体系においても観察されることが分かった（cf. 不安定さに起因する振動 *ljuljati se* vs. 変形に起因する振動 *klatiti se / gegati [se]*）。

4. まとめ

本稿ではセルビア語の振動を表わす動詞の一群の意味と分布について考察した。セル

ビア語の振動動詞は、すでに研究されている親縁言語のロシア語やポーランド語と比べてその数が多く、これら2つの言語とは異なるパラメータによってその意味領域が切り分けられている。本稿で行なった分析により、セルビア語の〈振動〉の語彙体系にとって重要なパラメータは、振動する物体の形状、振動の性質そして変形の有無であることが明らかになった。またセルビア語の振動動詞の分布が、先行研究における〈振動〉の意味領域の分類と必ずしも合致しない場合があり、この意味領域に關与的なパラメータの分類に関する更なる考察の必要性も明らかになった。今後は、セルビア語および他のスラヴ諸語における〈振動〉の語彙体系の研究をさらに進めるとともに、この意味領域に属する動詞がメタファー的意味においてどのように用いられるかについても考察していきたい。

Некоторые наблюдения над группой глаголов колебательного движения в сербском языке

ОКАНО Канамаэ

В данной статье представлен семантический анализ сербских глаголов, выражающих колебательное движение. В первой части статьи даются определение структуры изучаемого семантического поля и краткий обзор релевантных для данного семантического поля параметров, представленных в предыдущих исследованиях. По классификации, предложенной Т. И. Велейшиковой, поле «колебательное движение» разделяется на три части: (1) колебание жесткого объекта по причине неустойчивости, (2) колебание мягкого объекта по причине неустойчивости и (3) колебание по причине деформации объекта.

Во второй части статьи проводится семантический анализ каждого глагола колебательного движения. При анализе главное внимание уделялось отличиям данного глагола от другого/ других, а также мы рассмотрели, какую часть в изучаемом семантическом поле выделяет данный глагол.

В третьей части статьи мы пытались выяснить, какие семантические параметры являются релевантными для сербской лексической системы колебания. Мы пришли к выводу, что сербские глаголы колебательного движения составляют относительно сложную картину в данном семантическом поле. Для сербской системы колебания более релевантными являются семантические параметры «форма объекта колебания» (колебание вытянутого вертикального объекта: *климати [се]*, колебание эластичного объекта: *њихати се*, колебание тонкого и мягкого объекта: *лепујати [се]*), «характер колебательного движения» (нейтральное колебание: *љуљати се*, маятникообразное ритмичное колебание с большой амплитудой: *клатити се*, мелкое колебание целого объекта без существенной перемены места: *дрмати се*), а также параметр «отсутствие/ присутствие деформации» (как *љуљати се* vs. *клатити се/ гегати [се]*).